

## 昨年本当に水草(外来藻)は異常発生したのか

昨年、琵琶湖は平成6年以來の大渇水に見舞われた。水位が-97cmまで下がり県は渇水対策本部を設置しその対策に大奮であった。渇水によりいくつかの被害が生じたが、特に水草は目に付いたため、大発生と新聞紙上を賑わせたが、現実はそんなに大発生なんかしていなかったのである。

琵琶湖の水草は富栄養化の影響もあり、昭和35年頃から外来種であるオオカナダモ、コカナダモが異常繁殖し、船舶の航行に支障を来したり、切れ藻が腐敗して水質に悪影響を来すことから、県が積極的に刈り取りを実施してきた。平成6年度の大渇水の際は7,000トンを超える刈り取りを実施し、その後も3,000トンを超える刈り取りを行ってきた。

ところが、琵琶湖の水草に一昨年あたりから異変が生じてきている。一つは刈り取り量(繁茂量)が明らかに減少の傾向を見せていることである。平成10年度は2,500トン、平成11年度は1,600トンに止まっている。平成12年度は大渇水であり、同程度の水位低下を見た平成6年程度(約7,000トン)の発生を予想したのであるが、3,000トンにすぎなかった。一見大量発生に見えたのは、水

草の上にアオミドロが異常発生したため、これを水草の大発生と勘違いし発信されたのである。二つ目は、水草の種類に変化が見られることである。外来種であるオオカナダモ、コカナダモが減少し、在来種のクロモ、ネジレモの増殖が顕著なことである。これが刈り取り量の減少にもつながっている。

このように琵琶湖の水草に明らかに変化が生じている。富栄養化の象徴ともいわれた外来種の減少は、琵琶湖の水質が改善されたと解釈するのか……

しかし、一方ではアオミドロの異常繁殖に注意する必要がある。アオミドロは特に富栄養化の著しいところに繁殖する植物である。このアオミドロが異常に繁殖するということは琵琶湖の水質は悪化しており、外来水草の減少は他の要因とも考えられる。上っ面だけ見て渇水により水草が大繁茂したと大騒ぎするだけでなく、この現象をしっかりと捉え、その原因を究明する必要があると考える。ひょっとすると琵琶湖が何かのメッセージをわれわれに発しているのかもしれない。

## 「ヨシ腐葉土」好評発売中！

当財団では、刈り取ったヨシを有効に活用するため、ヨシの腐葉土を職員の手作りで製造し、販売しています。

ヨシ腐葉土は、琵琶湖のヨシを原料として作ったもので、**通気性、透水性**が特に優れているため、根張りが良くなり、根腐れの心配がありませんので家庭菜園作りにも好評です。

お問い合わせ、ご注文は当財団へお願いします。また、**滋賀県種苗生産販売協同組合加盟の種苗店**や**㈱アヤハディオの各店**でも販売していますので、一度おためし下さい。